

	意見の概要	分類	意見の整理	
1	流山市の場合はごみ減量が大きな1つの目的。	有料化の目的に関するもの	ごみ減量	
2	地球規模の問題としてはCO2の削減という課題があり、ごみを減らしていかなければならない。			
3	流山市は最終処分場を持っていないのが決定的。			
4	事業者は分別の徹底等によりごみ処理コストを減らしているが、それは市民にも置き換えられるのでないか。		ごみ分別の徹底	
5	有料化は減量、分別が大きな目的。		意識改革	
6	減量化の意識を持ってもらうのに有料化すると真剣に取り組むのではないか。			
7	世の中豊かになったといえるが、その結果として害が出ている。			
8	青梅市の例では、有料化により自分のごみに対する責任が芽生えている。		負担の公平性	
9	ごみ処理の細かいデータを公表することにより意識改革を図れる。			
10	行政サービスを受けるのにはそれ相応の受益者負担が原則、ごみをたくさん出した人はたくさん支払うのがよい。			
11	たくさん出す人は行政サービスをたくさん受けるという不公平感にも配慮すべき。		財政上の効果	
12	住民登録せずに行政サービスを受けている人にも負担してもらうべき。			
13	どこの市町村も財政が厳しい中、有料化による効果を明らかにする必要がある。			
14	人口増などでごみ処理費の増加が見込まれることから、その対策として期待される部分がある。		総合的な施策の中での位置づけ	
15	循環型社会の形成という全体の中にごみ処理有料化が位置づけられる。			
16	流山市民が豊かな暮らしを営むためにごみ処理有料化など様々な施策を行うことだということではないか。			
17	有料化によって負担の公平性は確保できるが、減量やリサイクルを達成するには他の施策も同時に進めなければならない。		有料化の課題に関するもの	説明責任
18	街づくりの観点で考えたい。			
19	ごみの有料化は趨勢であるが、市民を説得するのは難しい。			
20	有料化は住民に負担してもらうので、かなりの十分な説明が必要。	不法投棄対策		
21	税の二重取りになるのではないかという意見が出る可能性がある。			
22	有料化すると分別が不徹底になったり、不法投棄が増えたりしないか検討すべき。			
23	収入がない高齢者に対する配慮を検討すべき。	高齢者等の対策		
24	高齢者対策の具体例について検討すべき。			
25	高齢者に対して集積所まで持って行けない場合のサービスを行うこともあり得る。			
26	高齢者を年代で区切って無料とするのは疑問である。	ごみ袋の取り扱い		
27	有料化した東京の街では、主婦がごみを減らし少しでも小さい袋で出すよう心掛けている。			
28	指定ごみ袋は減量や分別の徹底に効果がある。			
29	レジ袋は小さいものが多く、集積所が山になってしまう。	制度・仕組み		
30	可燃ごみの指定袋が無くなって、集積所のごみが増えたように感じる。			
31	流山スタイルの制度仕組みを作りたい。			
32	すべてのごみを有料化するのではなく資源ごみは無料としたほうが良い。	その他の減量化方策に関するもの		分別の徹底(啓発)
33	有料化した先進市では、3年ごとに制度を見直ししている例がある。			
34	ごみ袋に名前を書くことで責任が生まれる。			
35	可燃ごみの指定袋制度があったときは今より分別ができていた。		集団回収	
36	雑がみの啓発が足りない。			
37	ごみ出前講座(ケロクルミーティング)を活用してはどうか。			
38	ワンルーム等共同住宅の管理者への指導を徹底すべき。		拡大生産者責任	
39	集団回収の報償金は助かっている。			
40	集団回収制度(報償金)についても議論すべき。			
41	集団回収の報償金の有効活用として防災セットを配布した例がある。		ごみ減量推進員	
42	報償金はごみの減量意識に繋がるような使い方が必要。			
43	魚のトレイなどや過剰包装について行政の側からや運動とかで何とかできないか。			
44	雑がみの分別などについてももっとごみ減量推進員を活用すべき。		検討のための情報	-
45	有料化を実施していない自治体の状況の検討。			
46	ごみの削減施策について横浜市などの検討。			
47	県内の有料化実施自治体の状況の検討。			
48	組成分析の詳細な調査。			
49	流山市に有料化を導入した場合の試算。			
50	単純従量制と一定量無料制を導入した場合における具体的な数値やそれぞれのメリット、デメリット。			